



教育センター・育成センター所報

GALILEI



CONTENTS

2月21日土曜日 開催の「柏崎の教育を語る会」より

○今月の巻頭言…………… P 1

★夢追い講座～ようこそ先輩～

教育センター運営委員
柏崎市立高柳中学校長 青柳 義昭

○教育センターだより

★アクセス（教育研究班）…………… P 2

★プロジェクト K（科学技術教育センター）…………… P 6

★心の窓（教育相談班）…………… P 10

○青少年育成センター通信…………… P 11

○3月の行事予定表…………… P 13

○所員随想「つれづれ」…………… P 13

★時間を上手につかうこと 教育相談班 林 由季

平成27年2月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

夢追い講座 ～ようこそ先輩～

教育センター運営委員
柏崎市立高柳中学校
校長 青柳 義昭



今、社会は少子化の影響で小中学校の学校数はかつての半分になったと聞いています。高柳中学校も、昭和の時代には 600 人を上回る生徒が在籍していましたが、現在は極小規模校となってしまいました。

しかし、大規模校であれ小規模校であれ、生徒一人一人に生きる力となる教育を等しく与えていかなければなりません。

伝統ある高柳中学校では、立派な人物を多く輩出していることから、現在活躍されている先輩方の話を直接生徒に聞かせたいと考え「夢追い講座 ～ようこそ先輩～」という講演会を平成 24 年度から行ってきました。以下に、4 人の方を紹介いたします。

政金 驍 様 「68 歳での未知の国への挑戦」

JICA（ジャイカ = シニア海外ボランティア）で、アフリカのマラウイ共和国に派遣されて自動車の車両整備の指導を行い、国際協力に貢献した経験から世界に目を向けることの大切さを教えていただきました。

吉川浩民 様 「21 世紀を生きる若者へのメッセージ 今、私が後輩に伝えたいこと」

群馬県副知事として多忙を極める執務の中、副知事の仕事や中学時代の思い出、ふるさと高柳へのメッセージを熱っぽく語っていただきました。

庭野佳織 様 「ダンスとの出会いとダンスの楽しさを伝えたい」

新潟アルビレックスチアリーダーズとして 4 年間在籍して活躍した体験談と、チアリーダーズダンスを指導していただきました。

森 邦雄 様 「新潟県とみんなの古里（ふるさと）高柳」

新潟県副知事として多忙を極める執務の中、副知事の仕事や中学時代の思い出、世界に羽ばたいても、ふるさとを心の中で大切にしてほしいという願いを語っていただきました。

後日、新潟県副知事 森邦雄様から御丁寧なお手紙をいただき「高柳中学校生として未来に『夢』をもち、『今』を大切に過ごしてください。」とありました。

生徒の感想は「いろいろな視点のお話を聞かせていただき、高柳のこれからの課題を再認識できた。」ということでした。

夢なき者に理想なし 理想なき者に計画なし 計画なき者に実行なし
実行なき者に成功なし 故に、夢なき者に成功なし

吉田松陰

■研修講座より

単元開発のススメ

◆1/28 (水) 社会科教材研究 講師：第一中学校 伊藤 貴史 教諭

この講座は、第一中学校の伊藤貴史先生を講師にお招きし開催しました。講座では、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点での単元作りの例として平和学習を取り上げました。そこでは、単元を再構築することによって学ばせたいことがより明確に伝わることを実際の単元の展開を示すことで伝えてくださいました。自分なりに教科の学びに総合的な学習のねらいを入れ込んだ単元開発を行ってみることが大事だとも解釈できる内容でした。



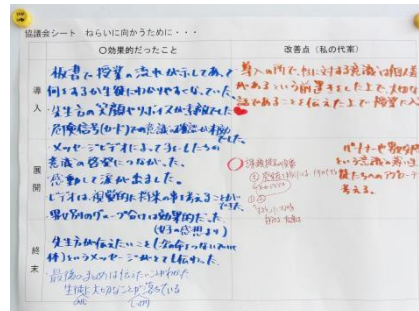
講義を行う伊藤貴史先生

参加された先生方の感想には「ここまで単元展開を工夫することで、子どもが自分の内面で葛藤が生じることに驚きを感じました」「EDS の視点等、一見難しそうに感じましたが、お話を聞いてみると自分でもできそうな気がしてきました」等、単元開発に向かう意欲が感じられる内容が多くありました。

切実感あふれる学びにするために養護教諭の出番がある

◆2/6 (水) 授業公開：北条中学校 勝沼朋子養護教諭、山本健二教諭

この講座は、北条中学校の勝沼朋子養護教諭と山本健二先生のお二人から性感染症にかかわる授業公開をしていただきました。これに先立ち、1月に多くの養護教諭が参集し指導案検討を行いこの日の授業公開に臨んだため、授業者の勝沼先生、山本先生ともに「みんなで一緒に創り上げた授業」という雰囲気が参加者の中に漂っていました。勝沼先生からは、養護教諭でなければ伝わらない内容の話やプレゼンがあり、生徒の心をとらえていました。



当日の協議会シート

参加された先生方の感想には「勝沼先生と山本先生の役割が明確で、これなら私たちももっと積極的に授業に入って行けると感じました」「養護教諭の役目は『生きること』を自分の問題としてとらえさせることだと確信しました」等、この講座の目的に迫る内容が多く記述されていました。

気づいた課題への主体的な取組を…

◆1/30 (金) スキー講習 担当：教育センター 池嶋 隆

この講座は、高柳スキー場を会場に、教育センターの池嶋隆氏を講師に開催しました。研修では、講師がそれぞれの技能の違いを把握後、「各自が見えない課題に気が付く」ために、両手に持ったストックを広げてターンする動き等もしてみました。参加者はうまく滑れず「なぜだろう」という疑問が自然に湧き上がってきました。気が付くと、各自で基礎的な動きの見直しを図ったり、正しい動きを意識して繰り返し滑ったりするなど、主体性あふれる動きになっていました。



両手を広げ説明をする池嶋氏(右)

参加された先生方の感想には「スキー場があるという柏崎のメリットを生かした研修でした」「今までもっとうまく滑れるはずと思いながら上達できませんでしたが、池嶋さんから指導をいただき解決しました」等、今回の開催意義や個別指導の効果に関する内容が多く記述されていました。

■第13回 柏崎の教育を語る会

支えよう！ 伸ばそう！ 「子どもの主体性」

～子どもが考える、ゲーム・ネット機器の使い方 & 魅力的な地域活動～

◆2/21（土）アルフォーレ 主管 教育センター

「自分の生活を自分で創っていこうとする主体性」が「生きる力」

今年で13回目を迎えた今回は、450名以上の参加者のもと、アルフォーレで開催しました。開会のあいさつで大倉教育長は「未来を見据えたくましく生きぬく、という柏崎市で育てようとしている子どもの根幹にあるのは自分の生活を自分で創っていこうとする主体性であり、これは生きる力にほかならない。みんなで一緒になって子どもの主体性を支えていきたい」と協働による活動を求めました。その後、「柏っ子クラブの土曜授業ネット中継」等のあと、学校の流れと同様にチャイムが鳴るごとに会は進んでいきました。

「ゲーム・ネット機器の楽しさ、便利さと危険性」パネルディスカッション

最初に中学1・2年生4人、和田泉北鯖石小学校教諭、阿部正光半田小PTA会長、阿部美紀精神科医、田村実情報教育主事の計8人が「ゲーム・ネット機器の楽しさ、便利さと危険性」をテーマに、パネルディスカッションを行いました。

便利さについて中学生たちは「すぐに連絡が取れる」「短時間で情報が入手できる」、大人たちも「デジカメを持って行かなくても写真を撮って送れる」「いつでもどこでも簡単手軽」など挙げました。



パネルディスカッションの様子

その一方で、困ったことについて中学生たちからは「伝えたいことがうまく伝わらず誤解を招く」「勉強している時、ラインやツイッターで集中できない」「依存症になりそう」など、また、大人たちからは「生活の乱れが心配」「人とかかわる力が育つか不安」などという話題が出ました。田村実情報指導主事からは「ゲーム機は小学低学年でも7・8割が所持しており、保護者は持たせる前のルールづくりが必要」「高学年になればなるほど大人からのルールの押し付けは効果が薄くなる傾向がある」等の話があり第一部が終了しました。

公開 「柏崎子ども会議」

第2部の「子ども会議」は、主に中学生4人による意見交換から始まりました。第一部の内容を受け、「自分の学校の生徒会が自主的に約束事を作り取り組んでいくべき」等の意見が出されました。その後、阿部美紀精神科医や田村実情報指導主事から依存症の怖さやそこから抜け出す困難さ、集団で取り組む強みなどのアドバイスを受け、「個人より集団で。そして、より大きな集団で一緒になってルールづくりを」という流れが生まれました。

そして、終盤では、「ゲーム・ネット機器の正しい使い方について、市内共通の共同宣言を自分たちから発信したい」という提案が会場で傍聴していた中学生に投げかけられ、この会議が終了してもステージ下で今後の動きの確認が、中学生同士でなされていました。



子ども会議の様子

魅力ある地域活動&メッセージリレー ～こんな風に子どもの主体性を支え伸ばしています～

様々な方面の方々が、柏崎の子どもたちを育てようと頑張っていること、そして、その力をつなげていこうという趣旨で設定した場です。柏崎小学校のわくわくシアター青い目の人形劇、瑞穂中学校20周年行事、青年会議所のキャリア教育、関町土曜子ども塾などの紹介の後、ガールスカウト、夢の森公園、ソフィアセンター、市P連等の方々からメッセージをいただきました。柏崎の未来を担う子どもたちを育てる、この尊い活動をつなげていくことが大事だと感じました。

■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

資料を登録しました

◆コンテンツサーバ(スクールオフィス)

実施日	講座名/資料名
2/4	スクールオフィス小学校成績管理指導要録様式 2 作成講習 NO21_小学校成績管理設定編.pdf (第 5 版) NO24_小学校成績管理指導要録様式 2 作成編.pdf (第 6 版)
2/5	スクールオフィス中学校成績管理指導要録様式 2 作成講習 NO25_中学校成績管理設定編.pdf (第 3.1 版) NO28_中学校成績管理指導要録様式 2 作成編.pdf (第 3 版)
2/17	スクールオフィス年度更新講習 NO11_年度更新講習.pdf (第 6 版) 年度更新チェックリスト.pdf (第 6 版)

◆コンテンツサーバ(ポリシー/サポート関連)

登録日	資料名
2/17	許可不要リスト_150217.xls

◆コンテンツサーバ(教育委員会資料)

登録日	資料名
2/12	ALT News Letter 第 36 号

■ スクールオフィス情報

年度末、年度始め処理のポイント

◆転入者向けに用意した「校務 PC スタートアップテキスト」を活用してください

市外からの転入者向けに、すぐに知っておくべき内容をまとめたテキストを用意しました。柏崎市の環境がどうなっているか、校務 PC を使い始める際に必要な情報や設定、情報セキュリティポリシーに関する情報など、チェックシートを兼ねた作りになっています。

The screenshot shows the website interface for the柏崎市立教育センターコンテンツサーバ. The main heading is '教育センター研修テキスト'. Below it, a table lists documents:

資料名	形式・サイズ
校務PCスタートアップテキスト_V1-2.pdf(H26.2.25)	PDF 5.3MB
スクールオフィス・IT環境に関するチェックリスト.xls(H25.11.01)	Excel 31KB

A blue callout box points to the first document with the text: '教育センターコンテンツサーバの「スクールオフィス」のページに登録してあります'.

◆クラス替えやクラス数の変更は新年度になってから

成績管理システムの利用が始まりましたので、年度内にクラス替えを行ってしまうと、成績の入力や指導要録の作成・出力に影響してしまいますので注意してください。

また、仮年度で次年度のクラス数を減らしてしまうと（今年度 2 クラス、次年度から 1 クラスなど）、年度更新時にそれまで所属していたクラスがなくなってしまう、「未所属」となる児童生徒が発生してしまうため、このようなケースでは自動的に元のクラス数（2 クラス）に戻されます。新年度になってから、クラス替えを行った後に減らすようにしてください。

◆転出・退職者の離任処理のタイミングに注意

教職員名簿に離任日を入力すると、その日付に関わらず、保存した時点で離任処理が行われます。以降そのユーザーはログインできなくなりますので注意してください。

管理者が転出する場合は、年度更新前に自分を離任処理しないでおき、年度更新を実行した後に新たな管理者を登録してから、前年度の環境に戻って自分の離任処理を行うとよいでしょう。

◆年度更新時のチェックボックスに注意

年度更新処理を実行する場合は、以下のチェックボックスの扱いに注意してください。仮年度で用意しておいたことが無効になる場合があります。

【仮年度がある場合】

スクール
オフィス 2.0 年度更新
学校基本情報管理 > 年度更新

2014 年度データから **2015 年度** のデータを生成します。 次年度データ再生成

※すでに、来年度【2015】のクラスデータは作成されています。

☐すでに次年度のマス目が仮年度更新で作成済みです。再作成する。
学校基本情報：クラスマス、項目定義、学期構成、校時パターン、学年別授業時数、休祝祭日マス
時数管理：授業カード、年間授業時数、特別教室専科マス

☒未就学児童を次年度の1年生とする

ここにはチェックを入れる

ここにはチェックを入れない(入れると、仮年度の登録データが無視されてしまいます)

【仮年度がない場合】

スクール
オフィス 2.0 年度更新
学校基本情報管理 > 年度更新

2014 年度データから **2015 年度** のデータを生成します。 次年度データ生成

☒未就学児童を次年度の1年生とする

ここにはチェックを入れる

■ 情報関連講習会のご案内

3 月に実施される講習会

◆H27.3.18(水) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A その 10

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

■ セキュリティ情報

セキュリティホール情報(Windows)

マイクロソフトより、2月11日付で2月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が3件、「重要」が6件です。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。

今年度理セン事業について報告します！

今年度もあとわずかになりました。おかげ様で当センター主催の各種事業は終了し、残すところ要請研修のみとなりました。今年度実施済みの事業について、以下にご報告します。

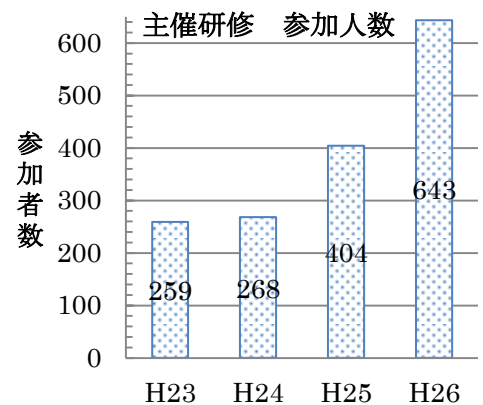
1 研修事業

(1) 主催研修 31 回 (昨年度 24 回)

予定していた全研修を修了しました。参加人数は昨年度を上回り 643 人。中学校の先生の参加も増えました。来年度も皆さんの声を反映しながら魅力的な研修を計画するよう努力していきます。



単元別研修 (5 年生)



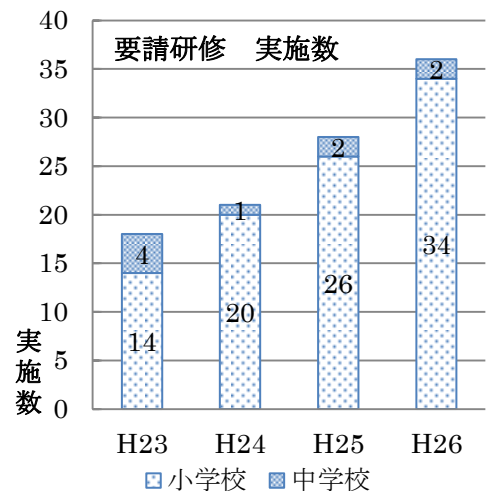
(2) 要請研修 (昨年度 28 回)

1 月末現在で 36 件の要請研修をお受けしました。昨年度より 8 件増加しました。今年度も科学研究の勧めや、面白科学教室、プラネタリウム、植物観察会、科学クラブ、川や地層の野外授業、放射線教育・・・といったように多岐にわたっていました。



要請研修 (6 年生)

今年度もまだ要請は受け付けておりますので何かありましたらお電話ください。



2 科学振興事業

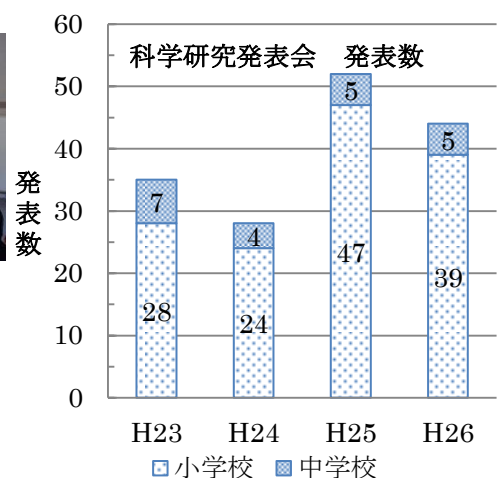
(1) 科学研究発表会

昨年度より発表数は少し減少してしまいましたが、先生方のご指導のおかげで今年もにぎやかに行うことができました。保護者の関心も高く、多くの方に児童生徒の発表を見ていただくことができました。



科学研究発表会

しかし参加学校数を見ると中学校は 3 校 (全体の 21%) 小学校は 13 校 (全体の 62%) です。もう少し多くの学校に参加していただきたいと考えます。夏休み明けから前期終了までの間で、発表会までの追実験、資料作成、事前指導が大変であることは重々承知しておりますが、来年度はより多くの児童生徒から発表してもらえよう年度当初からの計画をよろしくお願いいたします。



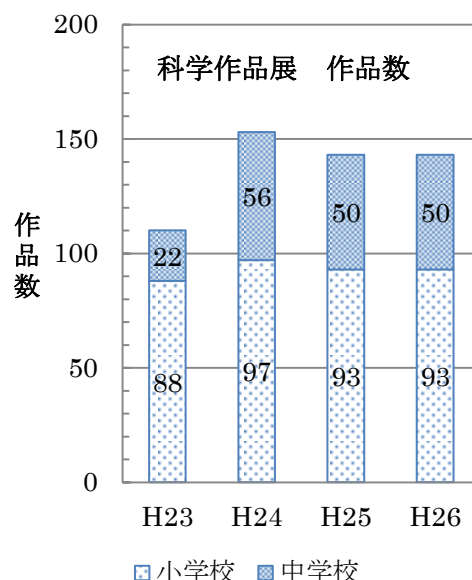
(2) 科学作品展

今年度も多くの優れた作品が集まりました。作品展に向けて今年度は科学研究おうえんプロジェクト、参考作品展、名前調べ会を行い、児童生徒の自然体験の場の提供をしました。興味関心をかきたてることで、できるだけ多く



科学作品展

の児童生徒が標本・作品作り等に取り組んでくれることを望みます。各学校においてもさまざまな自然体験活動の充実に向けてご協力ありがとうございました。上位大会である県の生物標本展でも柏崎刈羽地域から多くの作品が出品され、素晴らしい賞を受賞した作品もありました。参加校数はほぼ昨年と変わらず小学校 17 校（全体の 81%）中学校 6 校（全体の 43%）合計 23 校でした。来年度も多くの児童生徒の作品をお待ちしています。



(3) 科学の祭典

ブーススタッフとして多くの先生方にもご協力いただきながら今年も盛大に行うことができました。

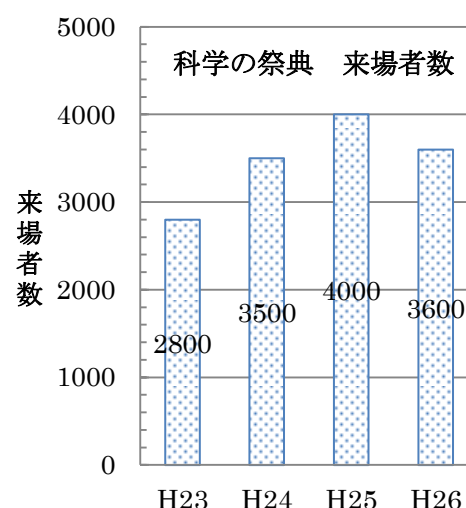
じっくり実験に取り組みたい児童生徒のために、今年度はチャレンジ研究室を作り、ちょっと科学者体験ができるようにしました。さらに工夫を重ねてより一層みんなが楽しめる行事にしていきたいと思います。



17ブース出店



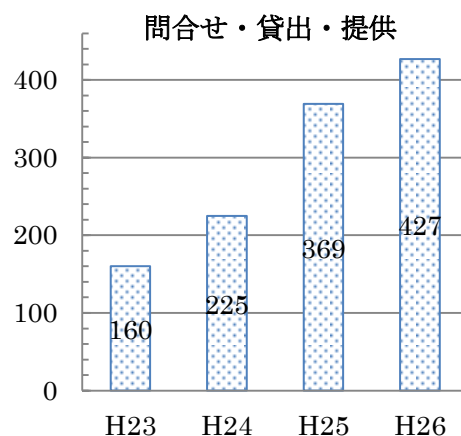
チャレンジ研究室



(4) 問合せ・貸出・提供

年度当初理科主任会でお配りした備品一覧表をもとに貸し出しを行いました。お電話一本で必要なものがあるのか確認できます。今年もたくさんの方々にご利用いただきました。また、「この実験うまくいかなかったんだけど、どうしてですか?」とか「教科書ではこういう結果だけど、どうしてもうまくいかない・・・」など授業で疑問に思ったことを尋ねてくる学校もありました。一緒により良い指導法を考えるチャンスをいただきました。

今後とも、身近な理科センターを目指してがんばります。



平成27年度全国学力テストで「理科」が実施されます。

魅力的な理科授業のさらなる推進を！

平成27年度 全国学力・学習状況調査テストは、国語（AB問題）算数（AB問題）に加えて理科も実施されます。前回（平成24年度）の結果を受け、各校ではこれまで観察・実験の重視、科学的な見方、考え方を養うために「問い」と「振り返り」を大切にしたい問題解決学習を推進するなど、授業改善が確実に図られてきたかと思います。この4月に全国学力テストが実施されるに当たり、まず先生方が平成24年度の問題を解いてみるのはいかがでしょうか。そして、どういう力を児童生徒に身につけさせるべきなのかを把握し、以後の指導、授業づくりに生かしていただきたいと思います。このような授業改善の取り組みが、児童生徒の力の確実な定着の一歩だと考えます。

実施日 平成27年 4月21日（火）

ここからは、平成24年度に実施した理科の結果と問題の一部を見てみましょう。

＜平成24年度 柏崎・新潟県・全国の理科平均正答率とそれらの差＞

	小学校理科 H24	中学校理科 H24
柏崎市	61.3	52.7
新潟県	61.7	50.4
全国	60.9	51.0

県との差（柏崎－新潟県）

小学校 －0.4

中学校 2.3

全国との差（柏崎－全国）

小学校 0.4

中学校 1.7

＜平成24年度 小学校において平均正答率が低かった問題＞

「観察・実験の結果を整理し考察する問題」

例) 天気の様子と気温の変化の関係についてデータをもとに分析して、その理由を記述する問題。

設問4(5) 正答率 17.1% ※詳細は次ページ参照

「科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする問題」

例) 水が温度によって水蒸気や湯気に変化する性質と、この性質が風車を動かすエネルギーとして利用されることに着目して考察する問題。

設問3(5) 正答率 42.7%

＜平成24年度 中学校において平均正答率が低かった問題＞

「実験の計画や考察などを検討し、改善したことを科学的な根拠を基に説明する問題」

例) 豆電球と発光ダイオードを用いた電流回路を作る実験の方法を検討し改善して、科学的な根拠をもとに正しい実験方法を説明する問題。

設問2(2) 正答率 7.8%

「実生活のある場面において理科に問題」

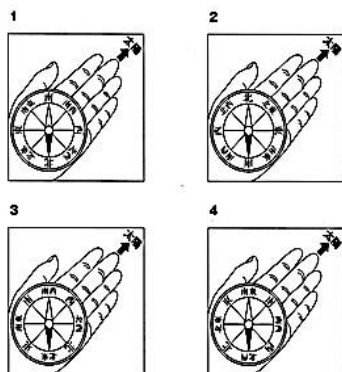
例) 両生類であるカエルを飼育する場面において、成長に応じて環境を整えた理由を説明する問題。

設問1(2) 正答率 38.5%

4 三郎さんは、5月20日の1日の太陽の位置と木のかげの動きや長さを調べました。下の3枚の図はその時のようすです。

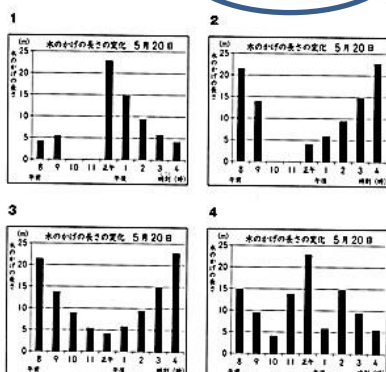
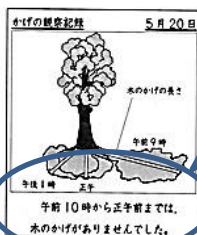


(1) 午後1時の太陽の方位を、正しく調べているのはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その時の太陽の方位を書きましょう。



(2) (1)で使った方位を調べる道具の名前を書きましょう。

(3) 三郎さんは、右のように観測記録をまとめました。
この日の木のかげの長さの変化をまとめたグラフはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

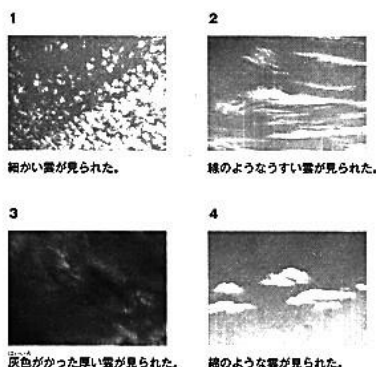


「午前10時から正午前までは木のかげがありませんでした。」ということは・・・と連想していくことが児童に求められている力ですね。

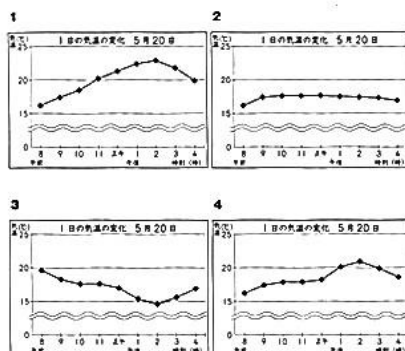
(3) 木のかげができなかった10時から正午までは・・・かげの長さが測定できていない！と考えられたら正答に近づけますね・・・

(4) 「午前10時から正午前までは木のかげがなかった」ということから、午前11時の空の様子は太陽の光がさえぎられるほどの雲があったということ連想(推測)することが必要・・・

(4) 三郎さんは、同じ日の午前11時の空のようすを、写真にとりました。
午前10時から正午前までは、木のかげがなかったことから考えると、三郎さんがとった写真はどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



(5) 三郎さんは、同じ日に気温をはかりました。
この日のかげのようすから1日の天気を見ると、気温の変化を表したグラフはどれですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。



(5) 「午前10時から正午前までは木のかげがなかった」ということから、この時間はくもり、その他かげが出ている時間は晴れということになります。ということは気温の変化はどうか・・・と推測できればよいですね。だから、この日の気温の変化を表しているのは4となり、理由は①10時から正午まで曇っていたこと、そうするとあまり気温の変化がないこと。②そのほかは晴れているので気温は変化することが時間と関係づけて書かれている必要があります。

<参考>

memorva.jp/ranking/japan/gakuryoku_test_chuu_2012.php

memorva.jp/ranking/japan/gakuryoku_test_shou_2012.php

全問題見たい場合は以下にアクセスしてみてください。

(<http://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>)

心の窓

No.186

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

E-mail soudan@kenet.ed.jp

☆ふれあいルームより☆

ヨガ教室体験



ふれあいルームの通級生たちは、冬期間屋内で過ごすことが多く、どうしても運動不足になります。

そんな冬の時期にこそこのヨガ教室です。今年も講師に渡邊美香先生をお招きし、ルーシーダットンという仙人ストレッチを体験しました。先生の指導を受けながら、深い呼吸と共にいろいろなポーズをとりました。ゆっくりとした運動ですが、自然と手足が温まり、体全体も温まってきました。気持ちよく体を伸ばすことで、心身共にスッキリして、とても良い体験になりました。子ども

たちも「すっきりした!」「体が少し柔らかくなった!」などと感想を話していました。

節分豆まき体験

節分の豆まきは、自分の中の追い出したい鬼を追い払い、安全、健康を願う日本特有の行事です。子どもたちからは、事前に自分の中のどんな鬼を追い出したいのか



聞きました。「なまけ鬼」「ゲームしすぎ鬼」などをいくつか出ました。そんな鬼を追い払えるように、「オニは〜外」と、鬼に向かって豆をぶつけました。とても楽しい活動となりました。



(ふれあいルーム指導員 神林 治男)

玄関前に作った雪だるま



教育相談班 3月の予定

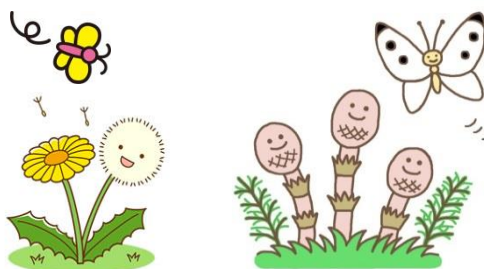
《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

6日 (金)	小学校A・B保護者会	15:00
13日 (金)	小学校C保護者会	15:00
19日 (木)	中学校①保護者会	15:00
20日 (金)	中学校②保護者会	15:00

《ふれあいルーム》

17日 (火)	保護者会	15:00
24日 (火)	通級終了日	



育成センター通信

0851

柏崎市青少年育成センター

〒945-1355 柏崎市大字軽井川 4803 番地 2

TEL 0257-20-7601 FAX 0257-23-4610

ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

柏崎市青少年問題協議会を開催しました

1月23日(金) 於:柏崎市教育センター

青少年問題協議会委員 8 名の委員と教育委員会職員の計 15 名で、柏崎市青少年問題協議会を開催しました。

今回は柏崎管内の青少年についての情報交換という目的で実施しました。

1 柏崎市における青少年の犯罪・補導状況について

- ①犯罪の低年齢化と再犯率が増加傾向である。
- ②スマホの悪用によるインターネットがらみの犯罪が増加傾向にある。
- ③県警として、フィルタリングの奨励、サイバーパトロールによる取り締まりを強化している。
- ④県全体としても少年非行は減少傾向で落ち着いているが、市内青少年の深夜徘徊等の不良行為は増加傾向であり、これらの呼び出しもスマホ等が利用されていると思われる。

2 児童・生徒の状況について

<高等学校>

月 1 回生徒指導主事意見交換会を実施しているが、問題点は、次のとおり。

- ①インターネットとかかわる問題で、「利便性と危険性」のモラル指導を実施しているが、危険性についてはなかなか理解が深まらない。画像送付の危険性については、「あぶない」「だめだ」と気付かせるよう指導している。
- ②自転車乗りのルール違反が多くみられる。例として、スマホをしながらの運転、並走、二人乗りなど。ホームルームでの指導、職員による交通指導はしているがなかなかよくならない。他関係機関と連携指導の継続が必要である。
- ③女子生徒の被害が心配である。例として、声かけ、抱きつかれ、スカート内の盗撮など。声かけ事案については警察を通じて逮捕されたが、自分は自分で守るよう指導していく必要がある。大きなショックを受けることに対してどう指導していくかが課題である。

<中学校>

新たな不登校を生まない努力、学力向上を継続している。不登校については減少傾向。「ひきこもり」もあるが、教師との面会や相談機関への参加など、何らかの接点はある。

問題点としては、次のとおり。

- ①アルフォーレなど公共施設の使い方のマナー指導が必要である。
- ②ゲームセンター・カラオケなど、生徒同士で行かないよう指導をしているが、今後もネットカフェ等他の施設の利用のしかたについてどのように指導していくかが課題である。
- ③メディア関係のトラブル対応について、「悪いこと」と分からない生徒が多い。世界へ発信されて

しまい、危険であることを指導すると納得する。セルフコントロール力をつけることに力を入れる。二中校区では、地区の小学校と連携してルールをつくり、家族や友達の協力・ルールが守られているか定期的に見直している。自分の言いたいことの発信は、「face to face」が大切であることを指導している。

<小学校>

- ①インターネットをめぐる状況では、ゲーム機がインターネットにつながることを知らない親が多い。また、アンケート結果から、1・2年生のスマホ使用が増加傾向である。親への啓発学習が必要である。
- ②危険という理由による公園での遊具の撤去や不審者問題、ゲーム等の普及で「遊ばない」「遊べない」子どもが増えている。そのため、人間関係を築くことができる環境が減少し、仲間とのつながり方を学ぶ場がない。
- ③保護者も学校側も、子どもが失敗しないようにお膳立てしてしまうことが増え、失敗経験によるたくましさが育たない。また、子どもが大変そうだとすぐ手を差し伸べることが多く、粘り強く何かをやり通そうとする子どもが育ちにくい。

3 児童生徒の学習・生活習慣と学力との関係について

全国学力学習状況調査の結果から、「学力」がメディア使用時間に左右されている実態が見られる。学校・家庭・地域への啓発が必要である。

今後、大人からの押し付けでない、子どもたち自らによるルールづくりを推進させていきたい。7月を目途に市内共通の「共同宣言」という形でできるよう、市内中学校の生徒会を中心に話し合っていく予定である。

また、大人たちも子どもたちの取り組みをバックアップするために、市P連等市内青少年育成関係団体と連携して、「ネット社会の被害から子どもたちを守る」環境づくりに取り組んでいく。

やはりメディアにかかわる問題が多く上がり、メディアの利便性や危険性をしっかり知り、柏崎市全体で取り組まなければならないことが共通理解できました。

2月21日（土）の「柏崎の教育を語る会」では、「子どもが考えるゲーム・ネット機器の使い方」について「パネルディスカッション」や「こども会議」が行われ、3月7日（土）には、「メディアが子どもの心身に与える影響～子どもをどう守るべきか」と題し、長岡赤十字病院小児科部長田中篤様の講演会が予定されています。多くの皆様方から参加していただき、柏崎の未来を担う子どもたちが直面している課題をご理解いただき、多くの目で柏崎市の青少年を見守る活動を広げていきたいものです。

育成座の活動紹介

育成座は、本年度は児童クラブ4か所、保育園1か所、子ども会連合会中越地区大会等計7カ所で活動しました。不審者対応のスタンプをはじめとして、高田保育園では避難訓練についてのスタンプを紹介し、園児と一緒に避難の仕方を練習しました。

右の写真は、防災ずきんを被る練習をしているところです。



3月の行事予定表		
日	曜	研修・行事・会議
1	日	
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	ふ：ソフィアセンター10:00～11:30 相：SST保護者会(A・Bグループ)
7	土	育：子どもサポート講演会14:00～16:00 (柏崎商工会議所5階大会議室)
8	日	
9	月	相：班会議13:00-
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	相：SST保護者会(Cグループ)
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	ふ：ふれあいルーム保護者会15:00～16:30
18	水	情：フリーQ&A
19	木	相：SST保護者会(中学生グループ)
20	金	相：SST保護者会(中学生グループ)
21	土	春分の日
22	日	
23	月	
24	火	ふ：後期後半通級終了
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	
研：教育研究班 科：科学技術教育 相：教育相談班		
ふ：ふれあいルーム 情：情報教育研修 育：育成センター		



所 員 随 想

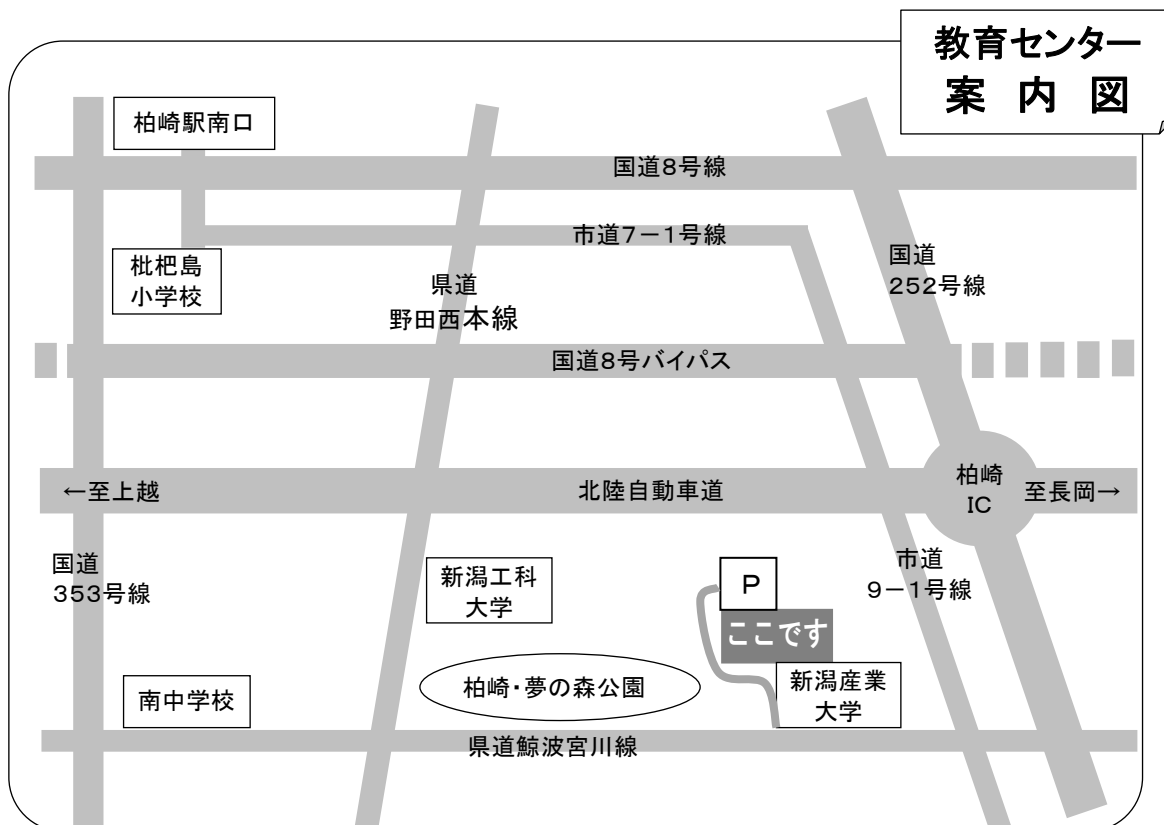
時間を上手につかうこと

教育相談班 林 由季

「七走一坐」という言葉を本で目にしました。これはもともと仏教で教えられている用語だそうで、一定の距離を走ったら、定期的に休み英気を養い、エネルギーを蓄え、これまでの走りやペース配分を見直すことで、また再び走り出すことが出来る、というものです。つまり、“〇〇しながら”ではただ時間が過ぎるだけで結局目的地にたどり着けない。休むべき時に休めない人は頑張るべき時に頑張れないということ。この本は禅（仏教）の教えに関する内容でしたが、「ふむふむ。これは心理学に通ずるものがあるな。」というのが私の感想です。日々の相談業務においても、自分自身においても、「心の安定を保つ」ことが常に課題ですが、ピンと張ったゴムのような余裕のない心では、ちょっとしたきっかけでゴムがちぎれてしまい、心の乱れに繋がります。それを防ぐため、一生懸命やる時間と休む時間と切り替えをしっかりとつけること、“〇〇しながら”ではなくそれぞれの時間を1つのことだけに集中して全力で楽しむ（取り組む）ことが大切であり、それが心の余裕に繋がることを教えられました。そして、極端ですが「私は時間の使い方が下手だから心が荒れているんだな。」と実感しました。

時間の余裕がすなわち心の余裕か……。明日から朝は10分早く起きよう、と心に決めました。





〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイのたゆまぬ創造と検証の精神にちなみ、教育センター所報を「GALILEI」と名づけています。

インターネット版は、「柏崎市教育情報支援システム」を検索し、トップ画面右上の所報「GALILEI」をクリックすると閲覧できます。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（電話相談）TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成27年2月発

=====